

令和8年度 学校運営方針

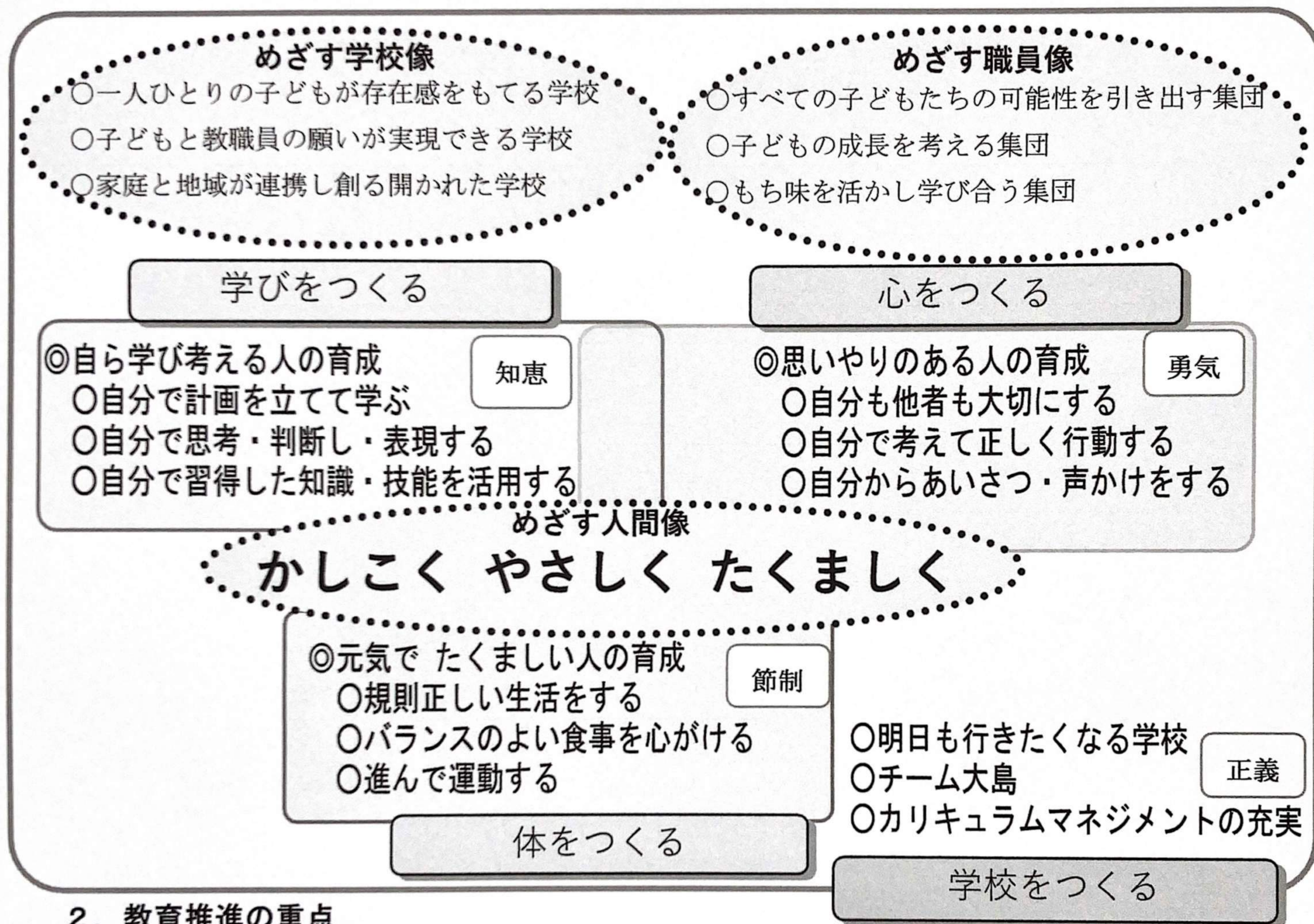
相模原市立大島小学校

1. 学校教育目標「かしこく やさしく たくましく」の具現化

持続可能な社会の創り手の育成

＜学校経営スローガン＞ 行こうよ大島小学校へ 明日も行きたくなる学校に

＜令和8年度 重点努力目標＞ すべての子どもたちの可能性を引き出す



2. 教育推進の重点

①授業・ふれあい学級を活かした自己肯定感・自己有用感の醸成

- ・授業や活動で子どもを認める、「興味をもって学び、わかる・できる」を大切にした授業・活動の充実
- ・学校生活全体でキャリア教育を意識した言葉かけ、子どもの得意・好きを認める

②つけさせたい力を明確にした、見通し・振り返りのある授業づくり

- ・授業を中心とした「確かな学力（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）」の育成
- ・専門性をいかした専科、学年内交換教科による授業の充実
- ・chromebookの効果的な活用と情報共有。教材・教具の共有による教材研究の効率化

③チームでの児童指導、支援教育の推進

- ・担任一人で抱え込まないチーム体制づくり（早めの相談、情報共有、関係機関連携）
- ・学年団の機能と支援部を中心とした意図的・計画的な関わり
- ・それぞれ（主任・担当等）の積極的な情報発信

④将来につながる生活改善、家庭学習の習慣化

- ・子ども自身のつけさせたい力の自覚（基礎・基本）と、キャリア教育を意識した（得意・好き）家庭学習の習慣化

3. グループリーダーを中心とした組織機能の充実

学びをつくる

●学びの定着

- ①くり返し基礎基本の問題に取り組ませる
 - ・ドリルパークやデジタル MIM 等を活用
 - ②学校での学びとつながる形で家庭学習に取り組ませ、宿題の定着を図る
- #### ●表現することを大切にした授業(「主体的・対話的で深い学び」のために)

- ①話すことや書くこと等を通して自らの学びを振り返らせる
 - ・授業の終わりや単元の終わり等に、自分の学びを意図的に振り返る場を設定
 - ・学年会等を利用し、授業の情報共有
- ②授業で Chromebook などの ICT を積極的に活用する
 - ・職員間で活用の情報発信・情報共有(活用例・打ち合わせでのミニ研修 等)

●学びの環境づくり

- ①校内の掲示物や学習の補助教材の工夫、関係諸機関との連携など、子どもたちが学ぶことに興味をもつための学習環境をつくる
 - ・掲示分担場所を明確にし、掲示物を定期的に貼り替える
 - ・To Do リストに外部協力者をまとめ、各学年で活用する

心をつくる

●個性を認め合える集団

- ①一人ひとりが活躍できる機会を意図的・計画的に設定する
 - ・児童会活動(代表委員会、委員会活動、学年集会、実行委員等)を活用する。
- ②自分と他者の違いに気づき、互いを尊重する集団づくりをする
 - ・それぞれの個性が発揮できる場を提供し、個々の強みを認識・評価する。
 - ・児童と共にルールを作り、それぞれが尊重される環境作りをする。
- ③相手を大事にする気持ちを育てる
 - ・教師は常に児童を「さん」呼びをし、授業中は児童同士も「さん」呼びをする。
 - ・「です」「ます」等、ていねいな言葉遣いで話せるようにする。

●自分で考えて行動する

- ①ルールのもつ意味を考えさせ、守ることがみんなの幸せにつながることを実感させる
 - ・年度始めに「しまっこのせいかつ」を確認する。
 - ・定期的・継続的に指導するとともに、当たり前前にできたことを適時に評価する。
- ②合意形成や意思決定をし、実践できるようにする
 - ・善悪を判断し、正しく行動できるようにする。
 - ・学級活動等を活用して、自分に合った解決方法を決め、行動できるようにする。

●自分からあいさつをする

- ①「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」等を自然に言えるようにする
 - ・年度始めに「あいさつの大切さ」について確認し、全職員で継続的に指導する。
 - ・安全ボランティアや地域の方に進んであいさつできるように指導する。

●基本的生活習慣

- ①「早寝早起き朝ご飯」をもとに規則正しい生活習慣を身につけさせる
 - ・ふだんから規則正しい生活習慣を意識させ、必要に応じて振り返りを行い、適宜指導をする
- ②けがや感染症の予防について、正しい行動をとれるようにする
 - ・環境衛生に留意するとともに、状況に応じて担任等が声をかけ意識させる
 - ・保健委員会で「けがの予防」や「感染症予防」を意識した取組を行う

●食育

- ① バランスの良い食事の知識を身につけ実践できるようにする
 - ・担任が日々の給食指導の中で食の大切さを伝える
 - ・給食委員会が中心となり食事の楽しさを広めるための活動を行う
 - ・担任と栄養士が連携を図り、食についての授業を実践する
 - ・給食時間に食に関する放送をしたり、指導用資料を配付したりする

●体力づくり

- ①子どもと教職員と一緒に遊ぶことで体を動かす楽しさを味わわせる
 - ・特活と連携し、島小タイムを充実させる
 - ・昼休みに体育館を開放する（跳び箱、マット、ネット等の場が設定されている場合はそれを優先する）
- ②外遊びをすすめる
 - ・運動委員会が中心となり外遊びを推進していく（なわとび等）

●明日も行きたくなる学校づくり

- ①集団での学習や生活の楽しさを実感させ、登校への意欲を高める。
 - ・他のグループとの連携を図り、取り組みを考え実践していく。

●チーム大島

- ①チームとしての力が最大限発揮できるよう、職員同士の連携・協力体制を図る。
 - ・学年会とグループ会議（学校・学び・心・体）のつながりを意識して、全職員が参画する学校運営をする。
 - ・学年の考えがグループ会議に反映されるように、学年会の進め方を工夫する。全職員で検討をすべき案件と判断したものは職員会議で検討する。
 - ・総括会議、学校をつくるGを効果的に活用し、情報共有や組織の活性化を意識する。
*大島小ポータルサイトに会議内容を掲載し、全員が見られるようにする。

●カリキュラム・マネジメントの充実(教育課程の工夫)

- ① キャリア教育の視点「乗り越える力」を中心にした教育活動を推進していく。
 - ・P（計画）年間指導計画にキャリア教育の視点を取り入れる。（4月 学年ごと）
 - ・D（取り組む）全職員が授業・生活の中で児童に対して意識して取り組む。
 - ・C（チェック）学年会等で振り返り・確認をする。
 - ・A（改善）より効果的になるように、必要なら柔軟に見直しを行う。
- ② 学年の学びを定着させるために、国算のワークテストを全学年統一し、必要に応じて1月に診断調査を実施し結果の振り返りを行う。
例）・2～6年生実施。1年生は問題を選択し、無理のない範囲で行う。
 - ・家庭学習にいかす手立てを取るとともに、授業改善にいかす。

4. 家庭・地域と共に

●めざす姿の共有・心のエネルギーをためる場

①めざす人間像、学校像の情報発信と共有

- ・島小だよりや各種便り、学校ホームページ等を活用し保護者や地域への啓発
- ・学校評議員会、安全ボランティア会議、PTA 役員会、懇談会、面談等を活用

②子どもを認める言葉がけ、得意を発揮する場

- ・年間2回の教育相談を有効に活用
- ・日頃の保護者への子どものプラス面の連絡（連絡帳、電話、便り等）
- ・職員室での積極的な子どもの情報共有

5. 小中9年間を通してキャリア教育の推進

●乗り越える力の育成を重点に

①内出中学校区共通の目標「乗り越える力」の育成を意識

- ・9年間を通して「乗り越える力」を育成できるよう、短・中期的な目標を共有
- ・小中一貫の日を利用し、中学校区で顔の見える（話をしやすい）関係をつくる
- ・chromebook の内出中学校区クラスルームを活用し、よりよい情報共有をめざす